

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>新しい書写</h1>	<p>2</p> <p>東書</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                  ○教材ごとに「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。目標を意識した「書写のかぎ」を設け、単元のポイントを確認できるよう構成している。                  ○毛筆では、穂先の動き等の基本点画の筆使いを朱墨と淡墨を用いて示してある。行書を書く動きのパターンを「二」「十」「口」「人」の四つに絞り、組み合わせることで示している。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                  ○単元の冒頭には、書写の学びを生かして考える活動が設定されている。キャラクターのセリフによる解説によって、課題を意識しながら取り組ませる構成になっている。                  ○防災訓練など、場面ごとに、書写の学びを生かして考える活動が設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                  ○「学習の進め方」として、①目標②「書写のかぎ」を見つける③書いて確かめる④生かして書く⑤振り返って話す⑥生活に広げる、という流れで説明している。                  ○「振り返って話そう」では、学んだことを対話的に振り返り、「○=できた」を記入させるようにしている。</p> <p><b>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</b>                  ○毛筆で学習した書き方を、硬筆に生かす学習活動として、「まとめ」のページが設けられている。                  ○硬筆と毛筆で書くことが交互に配置されており、両者を関連付けながら、学習の定着を図ることができる。</p> <p><b>&lt;各教科や社会生活との関わり&gt;</b>                  ○国語と連動して学ぶことのできる教材や言語活動を取り上げている。また、他教科の内容につながる題材も取り上げている。                  ○職場訪問や地域行事への参加などを題材にして、身に付けた知識・技能を生活の中でどのように生かしていくか、具体例が示されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○「文字を整えて書くための姿勢」「用具の名前・置き方」「書きやすい鉛筆・筆の持ち方」等を、写真を使って解説している。                  ○QRコードから動画を閲覧することができる。                  ○色による説明を必要最小限に絞っている。また、原則として文節で改行することで、文章を読むことに困難を抱える生徒へ配慮している。</p>	
<p>表記・ 表現</p>	<p>○A Bの判型である。半紙型を維持した紙面の部分は教材文字のみとして、集中を妨げない工夫をしている。見開き2ページの右に「見つけよう」「確かめよう」等の学習項目、左に毛筆手本を示している。                  ○毛筆の筆使いのポイントが、点線・濃淡・穂先の向き・筆圧等で示してある。                  ○「目標」「見つける」等の学習の進め方が、マークで示してある。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○学習事項を明確にし、単元を対話的に振り返る工夫をしている。                  ○教材と教材の間の「文字のいずみ」では、文字の成り立ちと移り変わり等を紹介している。書いた文字だけでは捉えづらい知識面の理解度を測るための「書写テスト」のコーナーが設けられている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">現代の書写</h1>	15 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">三省堂</div>
内 容	<p> <b>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</b>            ○教材ごとに「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。「見つけよう・考えよう」を設け、書き方のポイント等を生徒自身に考えさせることで知識を習得させるようにしている。            ○毛筆では、筆使いについて穂先の向きや筆圧を濃淡のある朱墨で示している。毛筆の学習の際に、硬筆で文字の間隔や形の変化等を確認させるようになっている。         </p> <p> <b>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</b>            ○各単元とも「学習の流れ」を明示することで、生徒が学習の見通しをもつことができる。キャラクターによるポイント解説により、課題を意識しながら取り組める。            ○日常生活で使う言葉や書き方を練習することで、実践的な力の定着が図れるように工夫されている。         </p> <p> <b>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</b>            ○「学習の流れ」として、①目標②書き方③見つけよう・考えよう④毛筆で書こう⑤振り返ろう⑥書いて身に付けよう⑦まとめよう、という流れで説明している。            ○「まとめよう」では、学んだことを書き残すことで、単元の学習を振り返らせるようにしている。         </p> <p> <b>＜毛筆と硬筆との関連＞</b>            ○「書いて身に付けよう」を設け、毛筆で学んだことを、硬筆で書いて確認できるようになっている。            ○硬筆での確認は、なぞり書きでの練習から始め、その後自力で繰り返し練習できるよう工夫されている。         </p> <p> <b>＜各教科や社会生活との関わり＞</b>            ○47都道府県名を行書で書かせることで、点画の省略等に気付かせる等、他教科との関連を図っている。            ○生活の中で活用できる封書やはがきの書き方、送り状、のし袋の書き方等が掲載されている。         </p>	
資 料	<p>           ○「姿勢と構え方」「筆・鉛筆の持ち方」「用具の扱い方」等を、写真を使って解説している。            ○QRコードから動画を閲覧することができる。            ○色覚の特性を考慮して、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫している。         </p>	
表記・ 表現	<p>           ○B5の判型である。各教材を見開き2ページで構成し、何を、どの順番で学習すればよいか分かりやすいレイアウトになっている。右に指導事項、左に毛筆の手本を示している。            ○筆使いのポイントが、点線・濃淡・穂先の向き・筆圧等で示してある。            ○「目標」「書き方」等の学習の流れが、マークで示してある。         </p>	
総 括	<p>           ○各教材を見開きで構成し、学習内容を一覧で示している。            ○「学びの広場」では、文字の歴史や文化、文字の魅力を伝えながら社会で活躍する人物を紹介している。「書写の広場」では、毛筆の道具の変化や毛筆補充教材等をまとめている。         </p>	

書名 項目	<h1>中学書写</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○教材ごとに「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。目標を意識した「なぞり書き」を設け、文字のバランスを身に付けさせるようになっている。          ○毛筆では、基本的な点画の他、筆順や穂先の動きを二色の薄墨で示している。硬筆で試し書きをしてから、毛筆での書き方を学ばせるようにしている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○各学年ともに、段階を追って章立てされており、ねらいを意識しながら学べる構成である。各資料には解説を加え、課題意識をもって取り組ませるように編集している。          ○授業や社会生活に関連した写真や資料などの解説を掲載し、参考例として比較しながら習得事項を活用させる機会を設けている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○「学習の進め方」として、①目標②考えよう③生かそう④振り返ろう⑤学習や日常生活に生かそう、という流れで説明している。          ○「振り返ろう」では、課題が解決できたかどうかを自己評価し、「○=できた、△=もう少し」から選び、枠に直接記入させるようにしている。</p> <p><b>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</b>          ○毛筆で学習した書き方について、「まとめ書きと応用」を設け、硬筆で書いて確認できるようにしている。          ○毛筆で学習した行書の書き方を、硬筆の他字に転移できる教材が例示されており、毛筆と硬筆の関連を図っている。</p> <p><b>&lt;各教科や社会生活との関わり&gt;</b>          ○各教科の書く活動と連動している。国語、社会、理科、数学など、各教科をバランスよく教材化している。          ○生活の中で活用できる基本的な手紙の書き方、包み紙、小包伝票の書き方等が掲載されている。</p>	
資 料	<p>○「基本の姿勢」「用具の置き方」「毛筆の持ち方」「硬筆の持ち方」等を、写真を使って解説している。          ○QRコードから動画を閲覧することができる。          ○色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色やレイアウト等の工夫により、すべての生徒にとって学びやすいよう工夫されている。</p>	
表記・ 表現	<p>○A Bの判型である。半紙型を維持した紙面によって、書き始めの位置や字形の整え方、文字の大きさと余白のとり方等が、より実感できる。見開き2ページの右に毛筆手本、左に「考えよう」「生かそう」等の学習項目を示している。          ○毛筆の筆使いのポイントが、点線・濃淡・穂先の向き・筆圧等で示してある。筆順を示している。          ○「目標」「考えよう」等の学習の進め方が、マークで示してある。</p>	
総 括	<p>○主体的・対話的で深い学びへ向かえるよう、話し合い活動が盛り込まれ、生きて働く書写力、思考を働かせて書く国語の表現力を高める教材を掲載している。          ○教材と教材の間の「コラム」では、日本建築との関連や文字の変遷等を紹介している。書写の知識・理解の定着を図るための「書写テスト」のコーナーが設けられている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学書写</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光村</div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○教材ごとに「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。目標を意識した「学習の窓」では、学習のポイントがひと目でわかるように工夫されている。            ○毛筆では、点画の種類ごとに、穂先の向き、筆圧と線の太さを濃淡のある朱墨で示している。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○知識・技能を習得し、課題解決を行う過程で、思考力、判断力、表現力等を養えるように工夫している。            ○教材冒頭には、文字の原理・原則を考えたり話し合ったりする活動を設定し、主体性や思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫が見られる。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○「学習の進め方」として、①課題について考えよう②書き方を確かめ、毛筆で書こう③学習したことを生かそう、という流れで説明している。            ○「学習を振り返る」では、「目標」「学習の窓」で示された学習のポイントを自己評価し、枠に直接記入させるようにしている。         </p> <p> <b>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</b>            ○毛筆の学習を生かして、硬筆で書くための「書写ブック」（硬筆練習帳）を設けている。繰り返し学ぶことで、確かな書く力を育むよう工夫している。            ○毛筆の筆使い等を理解する学習の後に、「生かそう」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆の関連を図っている。         </p> <p> <b>&lt;各教科や社会生活との関わり&gt;</b>            ○ノートや本の帯等、豊富な作例を掲載し、書写で習得した知識・技能を、国語や他教科・学校生活に役立てる方法をイメージできるように工夫している。            ○生活の中で活用できる手紙やはがきの書き方、送り状の書き方、原稿用紙の書き方等を整理して掲載されている。         </p>	
資 料	<p>           ○「書くときの姿勢」「筆記具の持ち方」「用具の準備・片付け」等を、写真を使って解説している。            ○QRコードから動画を閲覧することができる。            ○色覚等の特性をふまえ、文字や図表等はすべての生徒が明確に識別できるよう工夫されている。         </p>	
表記・ 表現	<p>           ○B5の判型である。行書の基本的な書き方を学ぶ教材では、半紙原寸大を掲載することで、大きくわかりやすい教材文字で学ぶことができる。            ○筆使いのポイントが、点線・濃淡・穂先の向き・筆圧と線の太さ等で示してある。            ○「学習の進め方」が、大きくわかりやすく示されている。イラストの人物等の吹き出しにより、学習のポイントを示している。         </p>	
総 括	<p>           ○「書写ブック」で、毛筆で学習したことを硬筆で繰り返し学習できるよう工夫している。書写で身に付けた力を、社会生活に生かせるような教材を掲載している。            ○「全国文字マップ」や教材と教材の間の「コラム」では、文字や文字文化への理解・関心を高められるように工夫されている。書写の知識・理解の定着を図るための「書写テスト」のコーナーが設けられている。         </p>	